

避難者と支援者による



# ふれあい フェスティバル 報告書



主催：広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会

## あいさつ

東日本大震災から4年半が経ちましたが、避難生活を余儀なくされている方々は全国で約20万人（復興庁：H27.10）となっています。そのうち都内に広域避難されている方々は7,210名（東京都：H27.10）。広域避難では最も多く避難されているのが東京都となっています。

こうした中、今だからこそ避難者同士のつながり、そして、避難者と支援者のつながりを作る場づくりが求められています。避難者同士のつながりでは、東京では10を超える避難当事者団体が各地で立ち上がり、避難先での生活を互いに支えあっていますが、広域での交流の機会は十分とはいえない現状がありました。また、長期の避難生活が想定される中、避難者と支援者との交流も欠かせなくなってきました。

そこで、広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会では、避難者同士の交流、また避難者と支援者の交流を目的として、さまざまな方が一同に会することのできる「避難者と支援者による ふれあいフェスティバル」を実施しました。

開催にあたり、本当に多くの皆様からご支援を頂きました。感謝致します。ありがとうございました。

広域避難者支援連絡会 in 東京  
広域避難者交流会 実行委員会

## 概要報告

**タイトル** 避難者と支援者によるふれあいフェスティバル

**目的** ①東日本大震災によって東京での避難生活を余儀なくされている方々と支援者の交流  
当事者・当事者団体と広域避難者支援を行っている様々な支援者・団体とが交流することにより、避難先でのつながりをより深める場とします。  
②東日本大震災によって東京で避難生活を送る方々同士の交流  
都内各地で避難している方々が避難先を超えて交流することによって、お互いに情報交換できる場はもとより、励ましあい心配しあえる関係を醸成していきます。

**日時** 2015年10月24日(土) 10時30分～15時30分

**場所** 都立木場公園(〒135-0023 東京都江東区平野4丁目6-1)

**参加者** 462名 うち、避難者 286名

※避難者への周知は、各当事者団体を通しての呼びかけとともに東京都都内避難者支援課が実施する「定期便」での発送や各区市町村からの情報提供等により行いました。

**主催** 広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会  
(実行委員メンバー) 青空会、足立区新田ふるさと会、コスモス会、鷺宮都営住宅自治会、東雲の会、東北の絆 サロン FMI 会、NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク、人の輪ネット、福島県被災者同行会、町屋6丁目ミニサロン、みちのくまほろば会、むさしのスマイル、かながわ東北ふるさと・つなぐ会  
(広域避難者支援連絡会 in 東京 参加団体) 荒川区社会福祉協議会、いたばし総合ボランティアセンター、さわやか福祉財団、災害復興まちづくり支援機構、全労済、中央労働金庫、東京足湯プロジェクト、東京災害ボランティアネットワーク、東京都生活協同組合連合会、東京ボランティア・市民活動センター、東京労働者福祉協議会、連合東京

**実行委員長** 三澤宏造(東雲の会)

**副実行委員長** 木幡四郎(東北の絆サロン FMI 会)、岡田めぐみ(むさしのスマイル)、井餘田隆也(町屋6丁目ミニサロン)、松崎真希子(コスモス会)

**後援** 福島県、宮城県、岩手県、東京都、江東区

## 開会式

(1) 実行委員長 挨拶 (東雲の会 三澤宏造)

(2) メッセージ

福島県知事 内堀雅雄氏 (代読: 福島県避難地域復興局避難者支援課課長 松本雅昭氏)

宮城県知事 村井嘉浩氏 (代読: 宮城県東京事務所次長 山内好尋氏)

岩手県知事 達増拓也氏 (代読: 岩手県復興局生活再建課相談支援担当課長 木戸口豊武美氏)

江東区 区長 山崎孝明氏 (代読: 江東区総務部危機管理室危機管理課長 加川彰氏)

(3) 副実行委員長紹介

東北の絆サロン FMI 会 木幡四郎 / むさしのスマイル 岡田めぐみ /

町屋 6 丁目ミニサロン 井餘田隆也 / コスモス会 松崎真希子



開会式の様子



三澤実行委員長の挨拶



司会のスノードロップ二瓶和子さん  
(左)と中央労働金庫 笹沼佑規(右)

## ステージ出演

ステージでは当事者団体 3 つ、支援団体 2 つ、当事者と支援者で作る団体 1 つの合計 6 つの出演がありました。

No	出演団体名	出演内容
1	岩本薫美子 & ニコふれんず	二胡の演奏
2	Music Caravan	ジャズの演奏
3	みちのくまほろば会 ウクレレ・フェローバンド	ウクレレの演奏
4	小藤流分家悠駒の会	日本舞踊
5	浪江町石神第一仮設住宅有志	ふるさと浪江、福島音頭
6	双葉町埼玉自治会 中野三夜子 双葉町埼玉自治会	日本舞踊 双葉音頭

なお、開会式・閉会式含め、ステージの司会は、避難当事者団体であるスノードロップの二瓶和子さんと広域避難者支援連絡会 in 東京 (中央労働金庫) の笹沼佑規が行いました。

## ブース出展

本イベントでは当事者団体13、支援団体19、その他本部など併せて30のブース出展があり、団体紹介や食事の提供、交流スペース、小物作り体験などさまざまな出し物がありました。

※1ブースに複数の団体が出展している場合があるため合計が合わない。

出展団体名	出展内容
生活クラブ生協・東京	豚汁
東都生協	お汁粉
コープみらい	フランクフルト
パルシステム東京	おでん
JC東京ブロック協議会 有志	焼きそば
東京都 都内避難者支援課	都内避難者相談拠点 出張相談
いわきの12人実行委員会	福島いわき物産展
双葉町埼玉自治会	もち・野菜販売
鷲宮都営住宅自治会	ハンドマッサージ
青空会	手作りアクセサリー販売
東北の絆 サロン FMI 会	ディンプルアート体験
人の輪ネット/ スノードロップ/ 東京足湯プロジェクト	リラックスcafé/ アクセサリー等の販売/ 足湯
災害復興まちづくり 支援機構	防災なんでも相談会
フォトボイスプロジェクト	フォトボイス展示
本部テント	参加者受付等

出展団体名	出展内容
宮城県東京事務所	宮城県相談ブース
福島県避難者支援課	ふるさとふくしま相談会
みちのくまほろば会	写真展「ふるさとは今」
江東ボランティア・センター	手芸品販売
ひよこ足湯隊	健康チェック
東雲の会	東雲サロン
ふんばろう福島 プロジェクト	お弁当配布
足立区新田ふるさと会	玉こんにゃく販売/ わらじ作り
コスモス会/ いたばし総合ボランティア センター	ミニ傘作り/ 綿菓子
NPO 法人とみおか 子ども未来ネットワーク	富岡町情報発信ブース
町屋6丁目ミニサロン/ 荒川ボランティアセンター	おたのしみ福引会
むさしのスマイル	Smile カフェ
金光教	子どもコーナー
東京労働者福祉協議会	ふれあいテント

## 閉会式

- (1) 副実行委員長 挨拶 (コスモス会 松崎真希子)
- (2) お正月準備の会 in 町田の PR (東北の絆サロン FMI 会 木幡四郎)



松崎副実行委員長の挨拶



木幡副実行委員長から  
お正月準備の会 in 町田の PR

## 実行委員や参加者の皆さんからの声

### 避難者と支援者による

#### ふれあいフェスティバルに想うこと

町屋 6 丁目ミニサロン 井餘田隆也

平成 27 年 10 月 24 日（土）開催当日は、素晴らしい晴天の中、500 人近くの人々が参加しました。都立木場公園での『ふれあいフェスティバル』、これだけの大掛かりな行事を広域避難者支援連絡会 in 東京（以下「in 東京」という）の数少ないスタッフが寝食を忘れたかのように事前に準備して下さり実施することができました。

7 月から本格的に支援団体の責任者や私も避難者を交えて定期的な打ち合わせ会議を開始、in 東京内部の計画案に沿って参加者全員で討議し、行事内容の立案から会場確保交渉等、必要と思われることすべてを支援者と避難者が和気あいあいとした雰囲気の中、全員で合意し決めていきました。参加者の会場への交通手段としてバス（中・大型車）の確保や各方面からの運航計画や時刻表作成、会場のテント・諸々の機材やその道具類の調達に至るまで、すべての準備が整えられ、当日は、ご承知のとおり大勢の参加者の中で計画どおりに実施できたことに、今更ながら in 東京の方々に対し感謝感謝の気持ちで一杯でした。心から感謝いたします。

このようなイベントは、私も避難者がふるさとの方と会える絶好の場であることを特に避難者は承知のはずですが、慣れない土地での外出は億劫で消極的になりがちです。送迎用のバスの手配は、参加したくてもできないことの多い高齢の避難者にとっては、とてもうれしいことでした。

最も私が感激したこと 1 点は、何と言っても 24 日当日のお天気が心配で、10 月 15 日頃、別件

で東京ボランティア・市民活動支援センター事務所に行ったとき、ついでに「24 日の天気は？」と伺ったところ、in 東京の事務局の方が「過去の行事で降雨のため中止や延期したことはないです」と淡々とお答えになったこと。数分経って思いついたのですが、in 東京の方々の発想と行動と提案力と決断力等々が素晴らしいから、お天気など心配しなくても晴れることは決まっていたのです。

晴天無風の中、司会の発声で本番がスタート、この瞬間、特に計画から携わってきた方々は感無量ではなかったかと思えてなりません。いよいよ開幕、ステージでの舞踊も圧巻でした。何年振りでしょうか、久しぶりににぎやかで大勢の着物姿での踊りに感動しました。午後 2 時過ぎに各ブースを回りながら、何か珍しいものはないかと見て歩いたのですが、遅かったですね、既に何も無い売り切れ状態にがっかりするやら嬉しいやら。どこも素晴らしいブースで『ふれあいフェスティバル』を盛り上げていただいた方々に感謝感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

最後になりますが、本事業は「タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム」の助成金のほか、真如苑「Shinjo プロジェクト」、中央労金や全労済、金光教、ほかの皆さまの多大なるご支援によって開催できました。あらためて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

また、これからは避難者個人個人の判断で、今後の落ち着き先（住まい）を決断するためにも支援者の方々のご支援が必要になります。どうか従前と変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。



## 「ふれあい」を大切に

東雲の会 穴戸真次

10月24日(土)、朝6時30分東雲住宅から「東雲の会」役員5人で都立木場公園に車で向かいました。7時頃に到着したら、東京ボランティアセンターの方々が会場設営を開始しており、「東雲の会」メンバーもそれぞれにテント設営や机の並べ作業等をして準備は8時30分頃までに終わりました。次に会場の要となる水を準備しました。水は沸かすまで時間がかかるので、釜に2パックずつ2人で運び入れました。9時近くになると他の団体の方や避難者の方々が集まり始め、同窓会の雰囲気になってきました。

やはり、朝は初秋の天気でしたが、開催時間になると秋晴れになり、実行委員長が「東雲の会」役員であった事もあり、天気が良くなりほっとしました。11時近くになると食券で豚汁とホットドックを交換し皆さんとの会話もはずむ中、美味しくいただきました。ステージでは相双地方や浪江の音頭が流れ、福島を離れて5年経とうとしている事を忘れ

させる雰囲気でした。

昨年は九十九里浜への旅行、今年は交流イベントとして開催され、実行委員の方々も色々大変だったと思います。あちこちのボランティア活動に参加していますが、これほどの人数の方々が参加したのは初めてだと思います。午後は、終わり近くになると涙を流されたり、また再会の話をする方などが見られました。

会は午後3時30分で終わりましたが、これからが大変でした。朝セットしたテントや机、椅子等を片付けました。朝は人数が少なかったのですが帰りは、多くの方のお手伝いをいただき、片付けは早く終わりました。

結びになりますが、私は東日本大震災にて多くの経験と助けを頂きました。避難の年月の長期化をふまえ、大変かと思いますが人と人のふれあいを大事にしていきたいと思います。人と人は支え合って生きているのです。困ったときは助け合っていくことが大切であるであると深く思いました。

## 一体となれたふれあいフェスティバル

青空会 山田栄子

当日は、最高の天候にも恵まれ、スタッフの方々には朝早くから、暗くなるまで多大なご足労をお掛け致し、申し訳ございませんでした。本当に有難うございました。

お陰様にて、青空会の参加者全員、大変、楽しい一日を過ごさせていただき、色々な出会いもあり、懐かしい人との再会もあり、感謝、感謝の一日を過ごさせて頂きました。

残念なことは私達のテントはステージから離れていて、出展物の販売などでステージの楽しい催しに参加できなかったのがとても残念でした(会場が広がったせいもあったと思います)。

あとはスタッフの方々の陰の力、支援して下さった団体の方に当事者団体の私達が一体となれた最高のフェスティバルだったと思います。

支援団体の方々、スタッフの方々、本当に本当に有難うございました。感謝致しております。



## たくさんの応援に感謝

みちのくまほろば会 後藤恭子

少し色づき始めた木々の公園は美しかった。バスを降りると潮の香りがして郷愁がよぎる。気温20度絶好のフェスティバル日和、本部役員の方々と実行委員会のメンバーで何度も詳細なスケジュール作りと、日程の決定に悩んだが…願いが通じたようで最高のプレゼントになった。会場は既に受け入れ体制が整い、オープニングジャズ演奏で華やかだった。ここまでした準備をしてくださったスタッフの方々のご苦労が窺えた。

あちこちから懐かしい顔と、声と、ふる里言葉が飛び交う、会場は明るい笑顔で満ちていた。久しぶりの旧交にホッとした表情と様子には喜びで溢れんばかりだった。

私たち「まほろば会」本日のメニューは「写真展、

## ふれあいフェスティバルに参加して

みちのくまほろば会 松崎光雄

27年10月24日(土)私たちは一路都立木場公園イベント広場を目指してバスを走らせました。今日は、東京や関東地域に避難している方と支援者による大交流会が広域避難者支援連絡会などの主催により行われます。県人会の後藤さん率いる「みちのくまほろば会」と「ファミリーサロンたなし」「ウクレレの会」それに「福島県人会」の面々が今日の参加者です。

8時15分田無郵便局前に集合。県人会からは、佐藤朋さん、前原さん、それに絵の仲間の大野さんが同行してくれることになりました。橋本副会長からの差し入れ缶コーヒー1ケースを持参する。有り難いです。

既に送迎バスが到着。間もなく後藤さんが見えられ合流。ファミリーサロンの甲本さんやウクレレ会の斉藤会長はじめメンバーが集まりスタンバイ。まほろば会の福田さんは毎回可愛い赤ちゃんと一緒に参加です。

バスは青梅街道を新宿へ、赤坂離宮、虎ノ門ヒルズを車窓から見て築地へ、右手に見る場外市場の通路は何故か外国人で溢れんばかりでした。外国人観光客が大勢来日しているという話はTVなどで紹介されていますがこれ程とは思いませんでした。早朝

ふる里はいま」と、バンド演奏、舞台は出番を待っていた。

フェスティバル参加と、出し物にあたっては西東京地域都民の沢山の支援者、「福島県人会」「ウクレレ会」「ファミリーサロン会」からの温かくて熱く、力強い、そして真心からの応援を頂いています。被災者でお世話になるばかりですが…。この地に避難させていただいた喜びを噛み締めています。ただ感謝の一言です。ありがとうございます。

なお、当会への支援会「福島県人会」の松崎様より、フェスティバル当日の詳細なレポートを頂いていますので、そちらの方へバトンタッチさせていただきます。紙面の都合上もありますので、どうぞ拝読して頂ければ幸いです。皆さまありがとうございました。

セリなどの見学なのでしょうか。そして蛸殻町から新大橋を渡りやがて目的地の木場公園入口に到着。降車して一同で記念写真を撮る。

本部関係者の案内で会場へと進むと既に参加者が集まっていました。本部への参加登録が済むと「まほろば会」のブースの立ち上げです。

今日は、浪江町出身の高木成幸さんが、被災地のフォト展示をして下さるということで来年小学校へ上がるというお孫さんと一緒に来てくれました。

悪戦苦闘しながらも高木さんの指示の下にパネルを設置する。高木さんは汚染土などを入れる大きな黒い袋も展示用として持参されていたのは正直驚かされました。パネルにはその黒い袋が立錐の余地なく広範囲に展開する、そのすさまじい光景に驚愕です。沢山の方に見てほしい写真と実物でした。

会場ステージではやがて実行委員長、東北3県関係者等の挨拶も終わり、いよいよフェスティバルの開始です。

11時トップバッターとして、二胡の演奏が始まりました。蘇州夜曲や夜来香など聞きなれた曲が優しい音色で奏でられ暫し心が癒されました。休憩をはさみ、いつもの夜の世界から今日は勝手の違う明るい場で演奏するというジャズ演奏を楽しみました。



ついに後藤さんたちのウクレレ演奏が始まりました。私たちも最前列に陣取って、高原列車・旅愁・星影のワルツ・東京音頭・見あげてごらん夜の星を・ふるさと・花は咲くを会場の人達と熱唱しました。

真っ赤なユニフォームに身を包んだウクレレ会のメンバーは月2回の練習で、少し練習不足だと言いながらも堂々とした演奏ぶりに感心しきりです。西東京市内の施設をボランティア訪問して演奏されており、お年寄りが喜ばれる顔を見るのが最高に嬉しいそうです。

その後、避難者の「東雲の会」による華やかな日本舞踊、そして「浪江町仮設住宅有志」による福島音頭の見事な踊りに続き、「双葉町埼玉自治会」による双葉音頭の総踊りは会場の皆さんをも巻き込んだ賑やかで、ふれあいの場を大いに盛り上げてくれました。

一方、車内で配られた食事券で楽しみの栗おこわの弁当を賞味。おでん・フランクフルト・豚汁・白玉ぜんざい・焼きそばなどの屋台が並び、食欲の秋よろしく美味しくいただきました。その他にも、綿菓子やら、手作りアクセサリーの店などが並び参加者は思い思いの店を巡っていました。私もつい「いちちょうの実」「手作りミニ傘」を買ってしまいました。バス旅行などで顔見知りになった泉田さんや清野さんにも会うことが出来ました。

### みんなと出会い、話ができ、元気になった1日

足立区新田ふるさと会 田中せつ子

前日は準備の為皆さんで手作りの夕食を食べながらこんにやく玉のしたごしらえを楽しくやりました。当日は天候に恵まれ、こんにやく玉売れるかな〜と心配しながらも、一本売れ二本売れ、美味し

そして最後のトリで再びウクレレ会が登場し演奏。会場の皆さんと「花は咲く」などを熱唱し幕を閉じることになりました。ブースの後片付けをした後送迎バスへと移動。あっという間の出来事のように木場公園を後にしたのでした。関係者の皆さんご苦労さまでした。そして感じたことは、自身が福島県人のせいかどうか、多くの福島の人達が会場を盛り上げ、そして活気が伝わってきました。事前の想定参加者数は400名だそうです。東京そしてその周辺の市町村には沢山の避難者がおられる筈であり、またボランティア活動を通じて支援されている方も沢山おられることと考えられます。残念ながら来場することが叶わなかった方々もあると思いますが、今後ますます交流を深めてもらいたいと思います。

秋も深まり夕刻となると大分暗くなります。車内と和気藹々、概ね順調に出発前の田無郵便局に到着しました。ウクレレのメンバーから反省会の話が持ち上がり、計8名で居酒屋にて盛り上がりました。皆さんはボランティアや趣味に活躍されており話題も豊富。演奏の反省などもあり和やかに解散となりました。

皆さん一日お疲れさまでした。このような機会があれば又参加したいと思った次第です。

いよとの声に嬉しさを感じました。わらぞうり作りは、作る人が、出来あがりに喜んでいました。

皆さんに会えて話しがはずみ、いやされ元気をもらい楽しい一日でした。

ありがとうございました。



## 大成功フェスティバル

東北の絆・サロン FMI 会 木幡四郎

FMI 会の参加者は、ふるさと除染と家屋解体立会の為に少なかったのですが、参加された方たちの中に4年目にして再会された方がいました。話に夢中になり「今、何してんのよ、これからどうすんのよ、これからどこに住むんよ、うんだ、うんだ」等と話に夢中になり周りの声など本人たちには何のそのであった。いろいろな避難先から集まり各ふるさと方言の言葉で華が咲き大変楽しそうでした。

会場の内容は本当に素晴らしいと思いました。避

難先でこれだけのもの、盛り上がりが出来たのも、一人一人の絆と支援団体の大きな力が有ればこそではないかと思います。

ふるさとの復興がいつになるか先の見えない事を考えるよりも、今が大事と言う事が分かる様な気がします。

最後に、慣れない土地での苦しい生活を共に乗り越え、避難当事者（私たちに）夜明けが来ますように頑張りたいと思います。

今後とも皆様方のお力添えを戴きますよう宜しくお願い致します。

## 避難者と支援者による

### ふれあいフェスティバルについて

特定非営利活動法人

とみおか子ども未来ネットワーク 市村高志

秋晴れの中で開催された「避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」に NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク（以下 TCF）は「富岡町の紹介」として出店しました。

内容としては、富岡町役場より提供を受けた写真を震災前と震災後の対比として展示したり、郡山市の仮設で暮らしている町民の方たちが取り組んでいる「草木染」の作品紹介と即売を行いました。

今回のような志向のイベントは、各当事者団体が企画を持ち寄り、準備運営に関わっているという事が最大の魅力となったと思います。現に出店ブースには、このイベントにスタッフとして参加している富岡町民の方との交流ができたり、仕事などの理由で交流サロンになかなか参加できない方なども、来て頂けたのではないのでしょうか。それ以外にも各出展ブースの方との交流や活動など、新たな出会いの場にもなり、来場して頂いた地域の皆様との会話など、様々な効果があったのではないかと感じました。

しかし、避難生活の中で、当事者団体が自ら率先して開催するというのは、避難先の事情が良くわからない点などがあり困難な状況なのですが、東京の支援者の皆様のきめ細やかなバックアップがあった事が、開催できた大きな要因と思います。

避難者とひとくくりで言われても、強制避難、自主避難、避難元など、それぞれの置かれている状況の違いがある中で、避難という点は共通しているにもかかわらず、支援体制の違いによる分断や疎外感などが作用して、どんな事業を行うにしても難しさが付いて回るのが実情だと思います。

少なからず、協働して行く中で得られる連帯感もさるものながら、立場の違いを乗り越えるきっかけが今回のイベントに参加して感じた事です。

私たちは避難元をベースに活動している団体ではありますが、避難先との連携も必要不可欠であると実感しております。そのような立場からも、今回のイベントはとても有意義なものであったと思いました。企画から準備、運営、片付けと関わった各当事者団体の皆様、支援団体の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。



## ふれあいフェスティバルをきっかけに

むさしのスマイル 岡田めぐみ

むさしのスマイルは、スマイル Cafe を出店し、子供服のガレッジセールを行いました。

震災から5年を目前にし、応急仮設住宅の供与が順次終了という通知が出されました。小さい子供と避難したママたちは、この5年間、「避難」という特別な状態の中で、日々の子育てに努力しています。様々な思いに自問自答し、苦しむことも多かった中でなんとか暮らしてきたこと、そして、生活を支える住宅の供与終了という大きな課題に直面し、不安ややりきれない思いを抱えているママがいないだろうか、ひとりでもそのようなママに会えたら、との考えがありました。

たくさんの方の中で、数年ぶりにある避難ママとの再会が叶いました。後日、彼女の住む地域サロンにお邪魔し、他の避難者の方とつながりを持つことはひとつの成果でした。

被災当時、乳幼児だった子どもたちは、5年間で園児、小学生へと成長しました。ガレッジセールでは、準備から売り子役まで大活躍。会場を回り、手

作り菓子を売り、お客さんをブースまで呼んで来て、「すごいね、がんばってるね！」とほめられた時に見せる表情は、親にとってもうれしく、年月が経ったことを実感する一幕でした。子どもは現実的にはもう「避難してきた子」ではなくなっています。

会場には、区民の方も多く訪れていました。中でも、赤ちゃん連れのママや夫婦が数組ブースに立ち寄られ、避難の経験や今の暮らしのことに耳を傾けてくれました。はじめは遠慮されていたものの、コーヒを飲みながら話は深まり、知らなかった、何かできることがあれば、と我が事のように思ってくださったのには、大変勇気づけられました。反面、私たちににとっての「大きな出来事」が、他方ではどう捉えられているのかという現実を知ることにもなりました。どう伝えていくか、少しずつでもいいから、多様な側面から力を貸してもらうにはどうすればいいのか、と、考え続けていることに結果が出ないままです。広域避難者ミーティング in 東京に集まる支援者の皆さんに、この点でも一緒に取り組んでもらえればと期待します。

## これからも出来ることを共に

鷺宮都営住宅自治会 関根仁美

鷺宮都営住宅自治会では「楽楽サロンふれあいハンドマッサージ」で出展させて頂きました。大勢の方とお話させて頂きました。懐かしい出会いもあり「あんた元気してたの?」「ここに来たら会えると思って来たよ!」とマッサージを受けながらな話に涙することもありました。

やはりお国言葉での話はマッサージよりリラッ

クスするようです。参加出来て良かったです。このような機会を作って頂きましてありがとうございました。震災から5年がたとうとしております。まだまだ復興には先が見えませんが少しずつではありますが心の復興は進んでいる気がしました。

これからも出来ることから共に前進していきたいと思えます。スタッフの皆様ありがとうございました。



## 絆を深めあったフェスティバル

かながわ東北ふるさと・つなぐ会 今里雅之  
あれから4年半、発災後は手探りの情報で家族の  
情報すら分らず、彷徨うように避難所を転々とし多  
くの方々の支援・激励により生活してきましたが、  
経年と共に生活のパターンは固定化し、高齢者はふ  
るさとの想いを懐かしみ友人・知人を求め語り合っ

## みんなで気持ちが一つになったフェスティバル

成増団地自治会（コスモス会） 溝上加代子  
10月の大晴天のもと木場公園で行われたふれあ  
いフェスティバル。

ステージでは、歌、踊り、演奏。

ブースでは手作りの作品、野菜など様々なものが  
販売され、体験コーナーもありました。豚汁や玉こ  
んにやくなど美味しい食べ物もたくさんありまし  
た。

会場には岩手、宮城、福島、東京都のブースも用  
意されみなさんの悩み、相談ごとを聞いていただけ  
るという、内容の充実した大変楽しいフェスティバ  
ルでした。

わがコスモス会のブースでは、幸せの傘と題しま  
して折り紙で作った手作りの傘をお配りしました。

## ふれあいフェスティバルに招かれて

双葉町埼玉自治会 藤田博司

ふれあいフェスティバルにお招き頂きまして有  
難うございました。加須市から大型バスと車1台で  
総勢50名で参加致しました。舞台上（爺の海）と  
（双葉音頭）を踊りました。

（爺の海）は、東日本大震災以前に小料理店を営  
んでいた渡部晃さんが避難してから当時のことを  
想いかけて作詞したものを大泉逸郎さんが作曲  
したものです。

渡部さんは、毎日隣町の請戸漁港へ仕入に通っ  
ていた時のことを思い出して作詞しました。その歌を、  
踊りの師匠中野三夜子さんが振り付けをし踊りま  
した。

双葉音頭は、20年前くらいに作られ町のイベン  
トの時に踊っておりまして。木場公園に、直接来ら

場があればと願っています。

その状況にあって今回の広域フェスティバルで  
思いが叶いあの日以来出会いで感動に心が弾み、時  
を忘れ懐かしく更に絆を深めあっていました。

イベントも豊富で話す・見る・食す・買う・動く  
とバランスの良い配慮で参加者一同笑顔の連続で  
した。

コスモス会の皆さんと地域の住民が協力し、傘を  
手にした方々が幸せになれるようにと思いを込め  
て300個作りしました。傘作りからコスモス会と地  
域の住民とのコミュニケーションも生まれました。

フェスティバルで、離れ離れになっていた親せき  
や知り合いの方と巡り合い、その後連絡を取り合っ  
ている方もおられます。

4月から月に数回の実行委員会を積み重ね開催さ  
れたふれあいフェスティバルでした。

実行委員ひとりひとりが、避難者の皆様に楽しん  
でいただきたいと、気持ちを一つにして取り組んで  
きました。

皆さんに楽しんでいただき、出会いの場となった  
フェスティバルの実行委員のひとりになれた事を  
光栄に思います。ありがとうございました。

れた方も、桜の法被を来て一緒に踊りました。

皆さんは、双葉町にいた時のように大変喜んでい  
ました。双葉町にいた時、農家の主婦たちが（ふた  
ば夢工房）を立ち上げ、赤飯 餅 惣菜を作り販売  
しておりました。特に柏餅が人気の商品で、日本橋  
高島屋でも大勢のお客様に喜ばれました。加須に  
来てから、田や畑を借りてコメや野菜を作っている人  
もいます。暇を見つけ、趣味の編み物で帽子を作っ  
たり、手提げなどを作っている人もいます。それら  
の物を、しばらくぶりで大声を上げ販売しました。

柏餅は、会場で作り、温かく柏の葉の匂いがし、  
双葉で食べている時のようでした。踊りも物産展も  
大盛況で皆さん充実した1日を送ることが出来大  
喜びでした。このようなフェスティバルを企画して  
いただき、有難うございました。ここから御礼申  
し上げます。

## たくさんの人と関わり、楽しんだ1日

人の輪ネット 能登春男  
ふれあいフェスティバルの24日は、さわやかに晴れ上がりました。

避難の当事者団体と支援団体で集まって行われたフェスティバルですが、人の輪ネットでも、東京足湯プロジェクトさん、スノードロップさん、エブリデイビューティーさんの当事者、支援者入り混じったブースを開きました。足湯は順番待ちの方々が出るほど、途切れなくお客さんが続き、スノード

ロップさんは手作り小物とクッキーをたくさん売上げたとのこと。ビューティーさんのスカルブマッサージは、気持ちがよく、足湯とのマッチングが最高でした。おかげさまで、ブースの直接のお客さまは185人となりました。合間をみつけて、交代で会場内の他のブースを訪れ、食べたり飲んだり、おしゃべりを楽しませてもらいました。

このところ帰還支援が強化され、避難先での生活が厳しくなってきましたが、憂いを忘れて楽しめる一日となりました。

## ふれあいと温かさに満ちたフェスティバル

福島県被災者同行会 矢内寿  
秋晴れの空に色づき始めた木々が美しい一日でした。会場には様々な屋台に加え、ゆっくりお話しができるカフェコーナーなどのブースが並び、ステージでは日本舞踊やウクレレの演奏などが行われ

ました。福島からは浪江町の仮設住宅自治会が参加されて踊りを披露。双葉町埼玉自治会のみなさんは「双葉音頭」の踊りで盛り上げてくれました。そして参加された皆さまの笑顔や人と人とのふれあいの温かさに満ちた、すばらしいフェスティバルとなりました。

## 送迎バスの実施 広域での交流にバスは必須でした

今回の「避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」では、10台のバスや車をチャーターして、参加者のための送迎バスを用意しました。都内の電車事情に詳しくない方や自家用車を持っていない方も多く、こうした送迎バスによって多くの方にご参加頂くことができました。



No	ルート名	ルート
1	浪江町石神第一 仮設住宅ルート	福島県本宮市 ⇄ 木場公園
2	埼玉県加須ルート	埼玉県加須市 ⇄ 木場公園
3	西東京ルート	西東京市 ⇄ 木場公園
4	町田ルート	町田市 ⇄ 木場公園
5	東雲ルート	江東区東雲住宅前 ⇄ 木場公園
6	東大島ルート	江東区東大島駅 ⇄ 木場公園
7	荒川ルート	荒川区町屋6丁目都営住宅前 ⇄ 木場公園
8	中野・新宿ルート	中野区鷺宮都営住宅前 ⇄ 新宿区百人町都営住宅前 ⇄ 木場公園
9	板橋・練馬・足立 ルート	板橋区成増団地前 ⇄ 足立区新田 ⇄ 足立区西新井 ⇄ 木場公園
10	三鷹ルート	三鷹駅前 ⇄ 木場公園

※No1の浪江町石神第一仮設住宅ルートとNo2の埼玉県加須ルートは、福島県被災者同行会からお声かけ頂き、参加頂けることになりました。

## 実行委員会 みんなで企画を作るため準備会を含め8回の実行委員会を開催しました

このふれあいフェスティバルは、都内各地で活動している避難当事者の団体と広域避難者支援連絡会 in 東京に参加している支援団体で実行委員会を設けて、企画・運営に取り組みました。

5月に準備会を開催し、6月から実行委員会を正式に立ち上げ企画検討を始めました。ふれあいフェスティバル実施後の11月まで準備会を含め、計8回実施しました。



実行委員会の様子

### <実行委員メンバー>

青空会 山田榮子/足立区新田ふるさと会 田中せつ子/コスモス会 松崎真希子、溝上加代子/鷺宮都営住宅自治会 関根仁美/東雲の会 高橋佑治、三澤宏造/東北の絆サロン FMI 会 木幡四郎/NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク 市村高志/人の輪ネット 能登春男/福島県被災者同行会 矢内寿/町屋6丁目ミニサロン 井餘田隆也/みちのくまほろば会 後藤恭子/むさしのスマイル 岡田めぐみ、松尾淳子/かながわ東北ふるさと・つなぐ会 今里雅之

### <実行委員会開催日時>

準備会 (5月14日)、第1回実行委員会 (6月18日)、第2回実行委員会 (7月16日)、第3回実行委員会 (7月22日)、第4回実行委員会 (8月26日)、第5回実行委員会 (9月11日)、第6回実行委員会 (10月7日)、第7回実行委員会 (11月19日)

## ご協力いただいた皆さま 様々なご協力ありがとうございました

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) /株式会社セレスポ/セカンドハーベスト・ジャパン/双葉町復興支援員 (ふたさぼ) /NPO 法人 かながわ避難者と共にあゆむ会/埼玉県労働者福祉協議会/所沢市福祉部福祉総務課/入間市福祉部生活福祉課/狭山市子ども福祉部福祉課/和光市社会福祉協議会/江戸川区生活振興部地域振興課/練馬区危機管理室 防災課/中野区経営室/板橋区政策経営部広聴広報課/荒川区総務企画部広報課/日野市総務部防災安全課/東京 YMCA/東京 YWCA/立川・東日本大震災避難者を支援する会/東京都医療社会事業協会/東京ハンディキャブ連絡会/東京新聞社会事業団/連合東京ボランティアサポートセンター/東京都社会福祉協議会/新宿区社会福祉協議会/文京区社会福祉協議会/墨田区社会福祉協議会/江東区社会福祉協議会/葛飾区社会福祉協議会/足立区社会福祉協議会/えどがわボランティアセンター/練馬区社会福祉協議会/西東京市社会福祉協議会/町田市社会福祉協議会/狛江市社会福祉協議会/調布市社会福祉協議会/府中市社会福祉協議会/小金井市社会福祉協議会/三鷹市社会福祉協議会/日野市社会福祉協議会/その他多くの皆さま

そして参加して下さった 462 名の皆さん

## 会計報告 たくさんの方々から応援をいただきました

収入	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (A-B)	備考
助成金	¥2,550,000	¥2,418,833	¥131,167	中央共同募金会/東京都共同募金会/真如苑
支援金	¥1,005,500	¥794,229	¥211,271	全労済/中央労働金庫/金光教/生活クラブ生協・東京/東都生協/コープみらい/パルシステム東京/災害復興まちづくり支援機構/フォトボイスプロジェクト/鷺宮都営住宅自治会 等
総収入	¥3,555,500	¥3,213,062	¥342,438	

支出	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (A-B)	備考
旅費・宿泊費	¥2,060,000	¥797,250	¥1,262,750	バス借用代/宿泊代/会議出席旅費
諸謝金	¥0	¥33,411	-¥33,411	ドライバー謝金
印刷費	¥250,000	¥403,936	-¥153,936	チラシ作成費・報告書作成費
委託費	¥1,120,000	¥1,828,720	-¥708,720	会場設営代等
会議費	¥120,000	¥75,000	¥45,000	会場使用料
保険費	¥0	¥12,900	-¥12,900	行事保険加入費：430名
消耗品費	¥0	¥52,341	-¥52,341	屋台備品代等
発送代	¥0	¥2,376	-¥2,376	
振込手数料	¥5,500	¥7,128	-¥1,628	
総支出	¥3,555,500	¥3,213,062	¥342,438	



※この事業は、タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム、東京都共同募金会、真如苑「Shinjo プロジェクト」の助成金、また、中央労働金庫、全労済、金光教の支援金を受け実施しました。

タケダ・赤い羽根  
広域避難者  
支援プログラム